

第171回マイスターネット講演会

2021年1月16日

赤井 喜久枝 永田 典子

## 新型コロナウイルス（COVID-19）に揺れた“2020”

### &ペスト流行史とその記録

2020年は、新型コロナウイルスの流行により、私達の生活は多大な影響を受けた。過去にも人類は天然痘、コレラ、麻疹、ペスト等様々な感染症に苦しめられてきた。最初に2020年の新型コロナウイルスへの国内外における出来事や対策等を振り返り、後半に、世界で大きな影響を与えたペストについての流行史と関連する記録や作品を紹介する。

#### I.新型コロナウイルス出来事及び対策等

	国内	海外
		2019/12/8 中国、最初の発症確認。 31: 中国武漢市27名の「原因不明の肺炎患者発生」の発表。
2020年1月	6: 厚労省中国の原因不明の肺炎発生の発表 15: 新型コロナ感染患者国内1例目確認。 18: 個人タクシー組合屋形船で新年会。新型コロナ感染か。 29: 奈良県バス運転手コロナに感染 武漢から帰国チャーター機第1便206名帰国 30: 武漢からのチャーター機第2便、 31: 武漢からのチャーター機第3便	9: 中国国営TV「新型コロナウイルス検出の報 21: 米国武漢から帰国の男性感染確認 23: 武漢市都市封鎖（ロックダウン）開始 武漢死者200名の報 30: イタリア武漢出身の中国人観光客の感染確認
2月	3: 横浜大黒ふ頭クルーズ船ダイヤモンド・プリンセスの臨船検疫開始 7: チャーター機第4便、17: 第5便、 13: 国内初のコロナ死者、神奈川の80代女性 17: 風邪の症状や37.5度以上の発熱が4日間以上続く場合は、帰国者・接触者相談センターに相談するとの厚労相からの呼びかけ。 28: 北海道知事緊急事態宣言。週末の外出自粛要請 29: 安倍首相コロナ関連初会見。臨時休校要請説明 ダイヤモンド・プリンセス死者6名感染者710名	12: WHO 新型コロナウイルスをCOVID-19と命名 21: イタリア北部ベネト州で初の死者 25: 韓国・大邱市感染者危険情報 台湾: マスクシステム実施—マスクを行き渡らせる。
3月	2: 全国のおよそ半分の学校休校へ。 9: 中国、韓国からの大幅な入国制限 専門家会議3密回避の呼びかけ	8: イタリア北部を封鎖。 10: イタリア全国に移動制限。 11: WHO パンデミック宣言。

	国内	海外
3月	<p>9: 厚労省「マスク等物資対策班設置」</p> <p>19: 北海道緊急事態宣言終了。</p> <p>21: マイスターネット例会中止。</p> <p>24: 2020年の東京5輪・パラリンピックの延期決定。</p> <p>25: 小池都知事「オーバーシュート重大局面として、夜間、週末の外出自粛要請。」</p> <p>29: 志村けんさん、新型コロナウイルス感染の肺炎で逝去。 ‘Stay home’, ‘social distancing’</p>	<p>11: 米高官「武漢で隠蔽あり」と批判。</p> <p>13: テドロス WHO 事務局長「欧州が世界的流行の中心地」 米国「国家非常事態宣言」</p> <p>16: ドイツ入国制限。</p> <p>17: フランス外出禁止措置。</p> <p>25: 英チャールズ皇太子感染発表。</p> <p>27: ジョンソン英首相の感染発表。 アメリカ、ヨーロッパで死者急増。</p>
4月	<p>1: 安倍首相「布マスク2枚を全世帯に配布」発表。</p> <p>3: 世界49カ国・地域からの入国拒否。</p> <p>6: 国内陽性者数 3,906 人</p> <p>7: 政府7都道府県—東京、神奈川、埼玉、千葉、大阪、兵庫、福岡 対象に5月6日まで発出</p> <p>16: 緊急事態宣言全47都道府県に拡大。 安倍首相「減収世帯に30万円給付」を翻し、国民へ一律10万円給付を発表。</p> <p>20: 10万円給付等を盛り込んだ補正予算閣議決定。</p> <p>23: 岡江久美子さん新型コロナウイルス感染で逝去。 軽症者は病院ではなくホテル等宿泊施設へ。</p> <p>28: 感染有無のPCR検査等を受けられない人多数。</p> <p>30: 一律10万円給付の「特別定額給付金」国会承認。補正予算成立。 学校の入学時期を9月にすることを検討。</p>	<p>8: 武漢の封鎖解除。</p> <p>11: アメリカ死者2万人超。 世界の死者10万人超。 アメリカ、ブラジル感染者増。</p> <p>14: アメリカ「WHOへの資金拠出停止」</p> <p>26: 欧州、イタリア、スペイン、英国医療従事者に防護具不足。</p> <p>30: 中国死者数 4637 人</p>
5月	<p>1: 持続化給付金、中小企業200万円、個人事業主に100万円給付。</p> <p>4: 緊急事態宣言を5月31日まで延長。</p> <p>7: 厚労省、「レムデシビル」特例承認。</p> <p>8: 厚労省検査相談目安「37.5度以上」を削除。</p> <p>14: 緊急事態宣言の1部39県解除。</p> <p>16: マイスターネットオンライン例会。</p> <p>21: 緊急事態宣言の1部、関西2府1県を解除。 首都圏の1都3県と北海道は残る。</p> <p>25: 緊急事態宣言を全国解除。夜の街関連感染者増</p>	<p>11: 仏外出禁止令緩和。</p> <p>13: 独周辺国との出入国制限緩和。</p> <p>19: WHO 総会。習近平スピーチ。 米トランプ大統領、「WHOは中国より」と批判。</p> <p>インド、パキスタン、砂漠トビバツタ大発生。</p>

	国内	海外
6月	1:学校の再開。 10万円給付金申込書類届き始める。(藤沢) 24: 西村コロナ担当相、専門家会議廃止	7: コロナ全世界死者40万人超。 スペイン規制緩和 29:コロナ全世界死者50万人超。
7月	6:新型コロナウイルス感染症対策分科会第1回 10:イベント開催定員緩和。施設の50%。 22: Go To トラベル開始。 30: 日本財団お台場に仮設住宅、テント設置。	4:英国ロックダウン緩和 中国ーイベント、大学再開。
8月	第2波、人々の移動により地方に感染拡大。 17:GDP -27,8(年率) 28:安倍首相潰瘍性大腸炎により首相辞意表明。 8月末までのGo To トラベル利用者1339万人	ヨーロッパ徐々に感染者増。
9月	北海道、沖縄感染者増。 17: 菅義偉内閣発足。 9月1か月間のGo To 利用者1179万人。	21:スペイン首都等移動制限再開 22:英国パブの営業制限発表。 29: 米トランプ、バイデン TV 討論会 30:全世界死者100万人超。
10月	1: Go To トラベル東京発着追加。 Go To 商店街、イート、イベント開始 16カ国(タイ、ベトナム、中国、etc.) 入国ほぼ全面解禁へ。 脱ハンコ加速、コロナ対応、住まいも変化。 29:国内累計コロナ感染者10万人	2: 米トランプ大統領入院。 5: トランプ大統領退院。 13: 英地域別コロナ規制3段階に。 14: 仏マクロン大統領第2波を明言。 17: 外出制限。欧州感染急増。 30:仏2度目のロックダウン
11月	11: 感染拡大第3波。 27: Go To イート東京、大阪等10都道府県中断 28:Go To トラベル、札幌、大阪、愛知発の自粛要請。営業時間短縮要請。	5:英イングランド2度目ロックダウン 8: 世界感染者5000万人超。 9: 米ファイザー、独ビオンテックコロナワクチン90%以上の予防効果。 16:米モデルナコロナワクチン94,5%以上の予防効果。 23: アストラゼネカワクチン70%有効 感染者: 6000万人
12月	1. Go To トラベル 東京発着65歳以上の高齢者、基礎疾患のある人自粛要請。 国内感染者拡大。死者、重症者増。 8. 73.6兆円経済対策 14:Go To トラベル全国での停止発表(28日~1/11)	8:英国ワクチン接種開始 14:米国ワクチン接種開始。 19:英国コロナ変異種流行。 28:世界感染者8270万人 世界死者数 180万

## II. 新型コロナウイルス対策の課題。

1. 保健所の役割。
  
  
  
  
  
  
  
  
  
  
2. 検査数。PCR 検査、抗体検査、etc.
  
  
  
  
  
  
  
  
  
  
3. 医療体制。
  
  
  
  
  
  
  
  
  
  
4. リーダーの資質。
  
  
  
  
  
  
  
  
  
  
5. 専門家と国（政治）との関係。
  
  
  
  
  
  
  
  
  
  
6. WHO のあり方
  
  
  
  
  
  
  
  
  
  
7. 中国の対応

### Ⅲ. ペスト（黒死病）流行史

人類は様々な疫病と闘ってきた。特にペストは甚大な影響を与えてきた。

B.C.1100~1000	ペストの記述—聖書サムエル記
B.C.430~425	(天然痘大流行。)
B.C.300~200	ペスト、エジプトから中東に大流行 (エピデミック)
A.D.540~590	ペスト大流行 ナイルデルタービザンツ—ヨーロッパ。トビバツタ大発生。
1032	インド—ペルシャ—コンスタンティノーブル—全ヨーロッパ
1334	中国広州大洪水。大地震。ペスト流行。トビバツタ大発生。
1337	ヨーロッパにトビバツタの大群。シチリアペスト侵入—エーゲ海諸島
1348-49	アヴィニオン—フィレンツェ—ロンドン—スペイン—スウェーデン—ロシア
1353-65	ボッカチオ「デカメロン」完成。①
	イングランド南部 (ドーセット—デヴォン—ブリストル—ウェールズ) 大流行。アイルランドでも流行。全ヨーロッパ死者5千万人以上。中世の終焉。
1592-94	ペスト流行。ロンドン劇場閉鎖。②
1664-65	イギリスペスト流行。
	ニュートン—万有引力の基本的着想を得る。
1722	ダニエル・デフォー「疫病流行記」(ペストの記憶) ③
1894	香港ペスト大流行。北里柴三郎香港派遣。イェルサンのペスト菌発見。
1917-20	(スペイン風邪の流行死者5000万人以上)
1947	アルベール・カミュ「ペスト」④

#### ① ボッカチオ 「デカメロン」(10日物語)

7人の男と3人の女が、一人1日1話ずつ10日間話続けて100話をするという構成。100話の面白可笑しい好色艶笑譚の前に、陰惨なペストの死を描写した。

「…さて神の子の降誕から歳月が1348年目に達したころ、イタリアの全ての都市の中ですぐれて最も美しい有名なフィレンツェの町に恐ろしい悪疫が流行しました。それは天体の影響によるものか、あるいは私どもの悪行の為に神に正しい怒りが人間の上に罰として下されたものか、いずれにもせよ、事の起こりは数年前東方諸国に始まって、無数の生霊を滅ぼした後、休止することなく、次から次ぎへと蔓延して、禍なことには、西方の国へも伝染してきたものでございました。

それに対しては、あらゆる人間の知恵や見通しも立たず、そのために指令された役人達が町から多くの汚物を掃除したり、すべての病人の町に入るのを禁止したり、保健のため

各種の予防法が講じられたりいたしましても、信心深い人たちが恭しく幾度も神に祈りを捧げても、行列を作ったり何かして、色々な手段が尽くされても、少しも役立たず、上述の年の初めごろになりますと、この疫病は不思議な徴候で恐ろしく猖獗になってきました。

東方諸国では鼻から出血するのが避けられない死の徴候でありましたが、それとは違って、ここでは男も女も同じように罹病の初期には鼠経部か腋下に腫物ができて、それがある者にはリンゴくらいの大きさになり、他の者には卵くらいの大きさになり、人によって大小さまざまでありますが、一般の人はガボッチョロと呼んでおりました。この恐るべき腫物は体の2か所から始まって全身いたるところ広がりますが、その後病床の形態が変わってきますと、黒色または鉛色の斑点が股とか体のその他の部分に現れてきて、形が大きいと数が少ない、小さいと数が多いというように現れ方もまちまちでした。そうしてちょうど初めはガボッチョロが死の近い徴候であったと同じように、今度はこの斑点ができると、その人にとってはそれが死の徴候でした。この疫病の猖獗が益々ひどかったのは、接触がそれを病人から健康な人へと感染させがちなためでした。それだけではなく、ちょっと病人と話をしたり、時々訪ねて行ったりしただけでも、健康体に感染して、同じように死んでしまったり、甚だしきは、病人の着物とか、病人のさわったり使ったりしたものは何でも、それにさわると、たちまち感染するのです。」

ボッカチオが描写した、この災厄に対して人々の取った態度

- (1) 節制を尊び何事も過度にわたらないことが最上策と考えて実行した人々。
- (2) 全てを欲望の赴くままに解放し、楽しくしたい放題のことをやって陽気に暮らすのが最上策と考えた人々。
- (3) 中道を行くのが良いとして、いっさいをありのままに受け入れ、香りのよい花を携えて、其れを嗅いでいる、という暮らし方をする人々。
- (4) 逃げるに勝った上策はないと考えて、自分勝手に町から逃げ出そうとした人々。

しかしどの人々の間にも大した差は見られず、一様に死者を出し続けた。

「…1日千人以上も罹病しました。看病してくれる人もなく、何らの手当ても加えることもないので、皆果敢なく死んで行きました。…墓地だけでは埋葬しきれなくなって、大きな壕を掘って、その中に一度に何百という死体を、船の貨物のように積み重ねて埋葬した。田舎では、医者の手当てもなく人間というより獣のように斃れて行きました。かれらも町の人達と同じように、あらゆる仕来りを捨て、あらゆる仕事を顧みなくなりました。…天譴の苛酷の甚だしきは、概算して、3月からその年の7月までの間に10万の生霊がフィレンツェの町の城壁内で失われた。…」 野上素一訳 岩波文庫(1)

- ② ペスト流行により劇場閉鎖。シェイクスピア「ロミオとジュリエット」に描かれた。  
この作品は、1594-96年に書かれたとされる。

ロミオがジュリエットのいとこのティボルトを殺してしまい、町から追放される。ジュリエットは無理やり貴族のパリスと結婚させられそうになる。神父のロレンスに相談すると、神父は一計を講じる。それを飲めば42時間仮死状態になる瓶に入った眠り薬をジュリエットに与え、家族には死んだと思わせる。この計画を知らせるために修道士ジョン神父に手紙を持たせロミオのいるマンチュアに行かせる。ところが、ジョン神父は道連れのと鉢修道士を探しているうちに、伝染病に侵された患者の家に居合せたと疑いをかけられ、足止めされマンチュアに行けなくなる。

Friar John : Going to find a barefoot brother out, 道連れにと思って、同門の  
One of our order, to associate me, 鉢修道士を探しに行きました。  
Here in this city visiting the sick, この町の病人を見舞いに来ていたところを  
And finding him, 探し当てたその時に  
The searchers of the town, 町の検疫官に  
Suspecting that we both were in a house 、伝染病の猛威に侵された家に、我々二人が  
Where the infectious pestilence did reign, 居合せたと疑われ、扉は閉ざされ、  
Seal'd up the doors, and would not let us forth, そこに足止めされて、首尾よく  
So that my speed to Mantua there was stay'd. マンチュアに行くことが出来なかった  
Friar Lawrence : Who bare my letter, then, to Romeo?, 誰がわしの手紙をロミオに?  
Friar John : I could not send it— here it is again— 届けられずに、ここにあります。  
Nor get a messenger to bring it thee, こちらに送り届ける使いの者もいませんでした。  
So fearful were they of infection. みんな伝染病を怖がっていました。

③ ダニエル・デフォー「ペストの記憶」A Journal of the Plague Year (ペストの年の記録)

「ロビンソン・クルーソー」の作家として知られるダニエル・デフォーは、1665年に実際にロンドンで発生したペストについて、H・Fを架空の語り手にして記録した作品を1722年に出版した。ペストが流行した時、デフォーはまだ5歳で、しかも家族と共に地方に避難していたため、実際にペストの流行は体験していない。しかし1720年フランス、マルセイユでペストが発生したので、その危機感もありこの作品を出版した。デフォー自身は体験していないが、父親の兄にHenry・Foeという人がいて、ペスト流行時実際にロンドンに滞在していた。語り手のH・Fは、同じ頭文字でモデルとなる人物とされる。

1. ロンドンから脱出をしようとする人々。

1664年オランダでペスト発生の噂、12月にはロンドンでペストによる死者がセント・ジャイルズ教区から出る。その後教区周辺の死者が増加。最初人々は死者の数に一喜一憂していたが、次第に増加、町から脱出を試みようとする人々が、市外への通行を許可する健康証明書を求めて市庁舎に殺到した。逃げるべきか、留まるべきか。

- 裕福で商売や仕事に煩わされない人々が脱出。多くの人々は残っていた。H・Fも。
2. 迷信・幻影・幻覚。怪しい広告・偽医者や詐欺師の横行。  
人々の不安感に付け込む様々な迷信等が横行。呪文の札、「アブラカダブラ」
  3. 仕事を失う人々。— 製造業の親方衆。職工。職人。船舶従事者。奉公人。日雇い。
  4. 多くの寄付、義援金の援助が届けられた。他方盗みも横行した。
  5. 市当局の対応。— 貴族や富裕層が脱出する中、行政府の職員はロンドンに留まった。  
「ペストの流行に関し、ロンドン市長及び区長によって制定・公布される条令。1665年」
    - a. 調査員が教区ごとに任命されること。b. 調査員の職務（病人の出た家、病の調査）
    - b. 検死人 d. 外科医（患者の往診・検査） e. 付添い看護師の家屋 28日閉鎖
    - f. 病気の報告の義務（発症2時間以内） g. 病人の隔離（自宅に隔離） h. 家財の浄化
    - i. 家屋の閉鎖 j. 感染者の出た家屋からの転出禁止と例外 k. 死者の埋葬 etc.
「街路を清掃し快適に保つための条例」（街路は清潔に、清掃人が家庭ごみを回収）  
「節度のない者達と無駄な集会に関する条例」（a. 治安官による乞食の取り締まり。  
c. 芝居、見世物、人を大勢集める催しの禁止 c. 宴会の禁止 d. 店での飲酒（午後9時以降居酒屋、ビアホール、コーヒーハウスへの入店禁止）  
行政府による対策
    - a. パンの値段の維持 b. 食料の確保 c. 街路の清潔保持 d. 犯罪者への公正な罰不足したもの a. 2軒しかない。ペスト療養所 b. 備えの不足。

6. 1665年9月以降死者数減少

外出の増加。商売再開。疎開生活からの帰還。人々の会合—感染者増へ。

7. 1665年末 死者の大幅な減少。終息へ。

「時は1665年、恐怖のペスト、ロンドンを襲う、消された命はざっと10万、それでも僕は生きている！」 H・F

④ アルベール・カミュ「ペスト」 1947年

カミュの小説「ペスト」は、作家自身が体験した疫病ペストについて描いた作品ではない。第2次世界大戦終了2年後に出版されたこの小説は、カミュ自身が大戦中に体験したフランスにおける対ナチス闘争（レジスタンス運動）での体験を寓意的に描きこんだとされる作品である。戦争、疫病、大災害等人生の不条理に直面して、人々が如何に振る舞うか、立ち向かうのかを描いた。

場所：アルジェリア（当時フランス植民地）オラン市。

- 登場人物： a, ベルナル・リウー（医師） b. レイモン・ランベール（新聞記者）  
b. ジャン・タルー（旅行者、父親が検察官） d. パヌルー神父（イエズス会神父）  
e. ジョゼフ・グラン（下級役人） f. コタール（密売人、犯罪者）  
g. ミッシェル（門番） h. リシャール（オラン医師会会長） i. カステル（老医師）  
j. オトン（予審判事）



1. 4月ネズミの死骸の発見。死骸の増加。人々の死。人々に不安が増す。ペストに違いないとするリウーの判断。リウーの再三の主張により県庁にて保健委員会の開催。知事はペストと認めたがらない。会議の2日後、当局は、小さいビラを掲示した。曰く、「悪性の熱病の若干例が発生した。市民は冷静さを保つこと。下水に毒ガスを注入しネズミの駆除を実施した。医者診断があった場合は、報告の義務があり、市立病院の特別病室に隔離される。」市立病院の分館病棟はすぐに満杯になり、幼稚園に補助分院が開設された。リウーは、植民地総督府に報告書を作成した。一時疫病も衰退したかに見られたが、すぐに突如として急増。総督府から、「ペスト地区を宣言し、市を閉鎖せよ。」との公電が届く。

2. 市門の閉鎖により、「愛する者との別離といった個人的感情が、にわかに市民全体の感情となり、そして恐怖心と共に、この長い追放の期間の主要な苦痛となった。」手紙が、病毒の媒介になるとして禁止、市外電話も。電報のみ可とされた。市民は追放状態の感覚となる。神父パヌルーは、「禍の中にいるのは当然の報いだ。知らない罪で罰せられている。反省すべき時」と熱弁をふるう。県当局は義務的に壮健な男子を集め、救助作業に当たらせようとするも、不満の声に躊躇する。タルーは、ボランティアの保健隊を組織する。役人のグランも参加して、事務を担当。新聞記者のランベールは、手を尽くして脱出しようと試みるも不可。ランベールも保健隊に協力。

3. 8月半ば、風が起こり、幾日も市中に吹き渡り、ペストによる犠牲者は、市の中心部オフィス街にも増えた。放火等による火災も増え、ペスト令が戒厳令と同じ扱いになった。埋葬について。初めは棺が用いられたが、次第に墓地の用具小屋で担架に移され、棺が再利用された。巨大な墓穴が掘られて、担架から穴の中に滑り落された。まもなく埋葬地不足により、火葬となり、運搬に市電を活用した。失業者の増加により、このような仕事に人手を欠くことはなかった。市民は、不幸とか苦痛というような痛みをもはや感じなくなり、絶望に慣れてしまった。放心状態になってしまった。

4. 9月、10月になると、日夜仕事に没頭するも、他のことに関心を持たなくなった。リウーは、ペストに罹った予審判事オトン氏の息子フィリップに血清治療をすることになったが、彼の務めは、もはや治療ではなくなり診断すること、発見し調べ記述し登録しそれから宣告することとなった。このような状況でも元気だったのは、コタールとタルー。犯罪者コタールには、ペストがある間は、罪人というものはなく特赦を待つ受刑者の群れがあるだけだった。二人は、市立オペラ劇場での週1度のオペラ公演へ行った。公演中に役者が舞台上で（ペストのため）倒れてしまい、観客たちは大急ぎで劇場から逃げ出した。新聞記者のランベールは手を尽くして、脱出を試みようとしていた。しかしリウーに会いに行き、なぜか脱出せず留まる決心をする。オトン氏の息子は壮絶な苦しみその後死去。神父パヌルーはその息子の苦しみにずっと付き添っていた。そして2度目のミサを執り行った。しかし大部分の人々は、通常の宗教的な務めを不合理な迷信に置き換え、災厄よけ

のメダルや聖ロックのお守りを身に着け、予言を求めノストラダムスや聖女オデールが引き合いに出された。予言は人々に安心を与え、宗教の代わりとなっていた。パヌルーは説く、「神への愛は困難な愛だ。それは自我の全面的放棄とわが身の蔑視を前提としている。しかしこの愛のみが、子供の苦しみと死を消し去ることが出来る。」タルーは次のように考える。「パヌルーの考えは正しい。罪なき者が目をつぶされるとなれば、キリスト教徒は信仰を失うか、目をつぶされることを受け入れるかだ。パヌルーは信仰を失いたくない。」やがてパヌルーも腺ペストなどの徴候は一切なかったが死去。11月、人々は、すべての死者を弔う日の万聖節にも特に関心を示さなかった。毎日が死者祭だったからである。

タルーとランベールは、フットボール選手のゴンザレスと一緒に市立競技場に設けられた隔離収容所を訪ねた。ゴンザレスは競技場の見張りの仕事を週末だけ引き受けた。オトン氏が収容所に入っていた。市中には他にも多くの収容所があった。

11月の終わり、タルーはリウーに自分の正体を明かす。たる一の父親は次席検事で、ある日父親が死刑宣告をする裁判に立ち会う。そんな父親に怨恨はなかったが、心に悲しみを感じた。その後政治運動に参加。死刑宣告の上に成り立つ社会と闘うこと、ペスト患者にならないようにすること、しかし闘っている間も自分自身ペスト患者でなくなったことは1度もなかった。「ほかの連中より立派な人々でさえ、今日では人を殺したり、あるいは殺させておいたりしないではいられないし、それというのが、そいつは彼らの生きている論理の中に含まれていることだからで、我々は人を死なせる恐れなしにはこの世で身振り一つもなしえないのだ。」「誰にも病毒を感染させないようにする人間、ペスト患者になるまいとすることは、とても疲れることだ。」「心の平和に到達するのに取るべき道は共感だ」タルーは海水浴をすることを提案する。世間から遠く離れ、ペストから解放されて泳いだ。

5. ペストの突然の退潮。1月の間に少しずつ感染は減退。しかしタルーが発病。リウーは自宅で看病するが、亡くなる。リウーの妻の死の電報が届く。2月。市の門がついに開いた。盛大な祝賀行事が夜昼となく催された。

#### 参考文献

1. 村上陽一郎著 「ペスト大流行」 岩波新書
2. シェイクスピア著 「ロミオとジュリエット」 大修館書店
3. シェイクスピア著 「ロミオとジュリエット」 小田島雄志訳 白水社
4. ダニエル・デフォー 「ペストの記憶」 武田将明訳 研究社
5. アルベール・カミュ著 「ペスト」 宮崎 嶺雄訳 新潮文庫